

**土木学会北海道支部  
若手技術者の交流サロン ワークショップ実施記録**

北海道支部 古屋温美・山田菊子

**実施概要**

名 称：土木学会 北海道支部 若手技術者の交流サロン  
日 時：2014 年 2 月 2 日（日） 13:15-14:45  
会 場：札幌コンベンションセンター102 会議室（札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1）  
内 容：ファシリテータを中心にグループごとにワークショップ形式にて実施した。

司会の指定により、2 つのテーマのいずれかを議論した。

(a) 将来に伝えたい技術とはどのような技術か。

(b) 将来、土木技術者としてどのように社会に貢献したいか。

主 催：(公社) 土木学会 北海道支部

参加者：20～30 歳代を中心とする若手土木技術者 22 名

（うち社会人 11 名、学生 11 名。うち女性 3 名）

オブザーバ 13 名

スタッフ：司会 1 名、講師 3 名、ファシリテータ 4 名、北海道支部事務局 2 名、  
100 周年事業実行委員会 2 名

**プログラム**

13:15～13:20 開会挨拶 北海道支部長 木幡行宏  
13:20～13:35 実施要領説明 古屋温美・飯田善一郎  
13:35～13:45 情報提供「北海道の現況について」 北海道支部幹事長 有村幹治  
13:45～14:20 ワークショップ  
14:20～14:40 結果の共有と総括  
14:40～14:45 閉会挨拶 100 周年事業実行委員会 委員兼幹事 高野昇

司会：古屋温美

**議論の概要**

**A グループ：将来に伝えたい技術**

初めに、それぞれがなぜ土木を志したかを話し合った。土木を志望した理由には「災害の影響」や「将来に残る仕事」をしたかったという意見が挙がった。

その後、将来的に土木が抱える課題と解決の方向性について議論した。課題には「技術

者の不足」、「防災・減災」や、「過疎化などの地域の諸問題」等が挙げた。これらを解決する方向性として「土木のおもしろさを伝えること」に付随し、キャッチコピーなどの PR が重要であること、「自助・公助・共助を支援する仕組み」が重要であること、「医療や公共サービスとしての道路の役割」を改めて見直すことなどが挙げた。

このように土木技術者が関わるべき問題は非常に幅広い分野にわたるため、総合的な観点から考える必要がある。そして、官と学の連携を強くしてこれらにとりくむ土木技術者の人材育成にも力を入れることが必要である。

## **B グループ：将来に伝えたい技術**

大学において「土木工学科」の名称がなくなり、例えば「環境学科」という名称に惹かれて入学している現状にあることを前提として、議論した。

土木は「現実を知る」分野である。「現場」で「現実」を知る感覚を研ぐこと、知り得た「現実」を正しく「伝える」技術が、将来に伝えたい技術である。すなわち、自然などの多様な問題を扱うための感覚を磨いて実学にし、100 年後に伝えるものである。

最近、話題となった映画「風立ちぬ」は、(航空技術が) 100 年後の今の時代にリンクしヒットした。今から 100 年後に土木の技術の映画が作られるといい思いながら、「技術」に邁進していきたい。

## **C グループ：土木技術者としてどのように社会に貢献したいか**

土木の理想は、地域の案件に即した構造物を設計することである。しかし、いざ現場に手をつけると難点や改善点が見つかるように、設計と現場が繋がっていないことも多い。地域とコミュニケーションを図ることが必要だと感じる。また、様々な専門家が協議できる場を設けることも必要である。大学や学会に専門家が集まれる場をつくれればチームワークができるだろう。そして、「チームワークから最後に現場がハッピーになれる土木構造物づくり」ができるのだ。

## **D グループ：土木技術者としてどのように社会に貢献したいか**

最初に自分がどのように社会に貢献したいかを、自己紹介を兼ねて示した。社会、地域、土木構造物や企業、産業のあり方に広く分布した。これをもとに、10 年後、30 年後に、自分が土木技術者としてどうありたいかを考えた。

社会は今後 30 年の間に一度は衰退し、痛い目に合うだろうが、その後の立ち上がりが大切である。問題は多様化しており、解決するためには視点多様である必要がある。また、維持管理の仕事が多くなっていくだろう。そのような社会の変化の中でも、自分自身の勉強や資格取得を行いつつ、社会、経済の知識も備え、新たな社会の形成に関わりたい。また、人のグローバル化やキャリアの多様化も進むだろう。そのキャリアを社会に

役立てるとともに、キャリアの見本を次の世代に示したい。

### 講評

**有村幹治 北海道支部幹事長**

準備段階では「果たして学生も議論に参加できるのだろうか」と不安に思っていたが、立派に議論に参加し発表している様子を見て心強く感じた。発表にあったように、傷ついた後にどうするかが、みなさんの課題であると思う。今日の縁を大切にしていきたい。

### 閉会挨拶

**高野昇 100 周年事業実行委員兼幹事**

「若手技術者の交流サロン」は、土木学会の会員・支部部門から 100 周年記念事業として提案があったものである。若い人が未来に向けてどんなことをしたいのか知りたいという提案であり、採択された。これまで関東地区で 2 度開催され、今回が初めての地方での開催である。将来ビジョンは 2 週間後に本格的な議論が行われる。議論に本日の成果を報告したい。

以 上